

ともに先へ、先へ。

民主党 参議院比例区第65総支部総支部長

参議院議員 **えさきたかし**



えさきたかしの「がんばるバイ」No.44

国民を軽視する自民党の体質を問う



大多数の国民の「反対」声を無視して、7月1日（火）の夕方の臨時閣議において集团的自衛権の行使容認に係る憲法解釈の変更の閣議決定が行われました。

この日は朝から、首相官邸前から官邸周辺の議員会館前にかけて大勢の方が詰めかけて、「閣議決定を行うな」とのシュプレヒコールを上げていました。その数は、時間が経つにつれて多くなり、夕方には1万人ほどの人が集まっていました。官邸前に集まっている人たちを激励するために議員会館から向かいましたが、議員会館の歩道も溢れんばかりの人。そして、議員会館前の道路には、これまで見たこともないほどの

数の警察車両と警備の警察官がいて、抗議のために官邸前に行こうとする人たちの行く手を阻んで歩道を封鎖し、首相官邸前に人が行けないように規制していました。

国民自らの生活・生命に直接影響あることだからこそ、「反対」と直接言うために行動しているのですから、抗議の声を上げるためだけに集まろうとする人たちは、当然のように怒ります。国民の声、行動を封殺しようとする政権の姿を現しているかのような状況に、官邸周辺の歩道上は、一触即発の緊張感が張り詰めていました。

セクハラヤジと「金目でしょ」発言は同根

政府・与党が国民をバカにしているかのようなことは、これだけではありません。

東京都議会でのセクハラヤジが問題になり、その後、国会でも同様のヤジがあったことが報道されました。どちらも自民党では徹底究明や責任を取らせる処分を行うでもなく、うやむやとされそうです。弱い立場の者を軽視し、どうせそのうち忘れるだろうと考えているかのようです。以前「議会の華」と言われていたヤジは、発言者の発言に的確に合いの手を入れ、盛り上げるものと考えられており、熟練議員でなければできないものでした。最近の国会では、当選回数少ない議員を中心にヤジが発せられ、内容も発言者を攻撃するものなど、本来は「不規則発言」と言われる類いのヤジばかりとなっています。衆議院が小選挙区制度になって以後、政党間の対立が激しくなったことと無縁ではないでしょう。6月9日の決算委員会では、質問する私に対し安倍総理は閣僚席からヤジっていました。行政府のトップを含め、立法府での議論の場で野次の応酬する姿を見せられれば、国民の政治不信は高まっていくばかりです。

また、石原環境大臣の発言も物議を醸しました。大臣が福島県の被災者について「どうせ金目でしょ」と発言し、その後、日程調整など役所の事務方にセッティングさせて福島にお詫びに行きましたが、本来なら、すぐに福島に飛んで行き、お詫びすべきことではないでしょうか。この問題を軽く見ている証拠に、国会最終日の参議院本会議で石原大臣の問責決議の討論が行われている場面で、「金目」発言を追求する野党議員の発言に対して「正しいでしょ」とのヤジが与党席から聞こえました。「金目でしょ」発言自体は政権に共通する本音であろうと思われます。

国会や国民、果ては憲法までも軽視する総裁が率いている党では、党所属議員にまで体質が伝染してしまうようです。法治国家である我が国の立法府が軽視され、行政府＝国がより上位に位置しているかのように、「三権分立」という理念は忘れ去られているようです。与党の全ての議員がそうだとは言いません。一部の心ある自民党議員は、党の現状を嘆いています。しかし、自浄作用は期待できません。国民をないがしろにする政権に一刻も早く退場させるため、仲間の皆さんとともに運動をつくって行きたいと思えます。